

献血サポーターご紹介コーナー

Vol.23

能登中核工業団地協議会 様

豊かな自然や特色ある文化の土壌を持つ能登半島に、地域開発の拠点として整備された能登中核工業団地。石川県内外から進出され、ここに拠点を置いて事業を展開されている28社の皆さまによって構成される協議会です。

直近5年間だけでも計572名もの社員の皆さまが献血していただきました。6月28日(木)に能登中核団地コミュニティ施設で行われた献血では、63名の方からご協力いただきました。

長年にわたる献血協力のご功により、平成18年には石川県知事感謝状を、平成25年には厚生労働大臣感謝状を受賞されています。



当団地は現在33社が進出しており、事業所を有するほとんどの企業が協議会に加入しています。能登中核工業団地協議会は社会貢献活動を熱心に行っており、さまざまなボランティア活動の他、献血活動にも積極的に協力させていただいております。血液を必要とされている方々に少しでも多くお届けできるように、今後も志賀町と能登中核工業団地協議会が連携して取り組んで参ります。

能登中核工業団地協議会(志賀町商工観光課 企業誘致対策室) 小谷内 太士 様

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.



●「献血サポーター」とは
医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血に積極的に協力していただける企業・団体の皆さまです。

献血サポーターに関するお問い合わせ

石川県赤十字血液センター 献血推進課 TEL (076) 254-6372
または、献血サポーターホームページ <http://www.ken-sapo.jp/>



献血ルーム ル・キューブ 祝 5万人!!



今年でオープン4年目となる献血ルーム ル・キューブが、ついに献血者数5万人を達成いたしました!

今回5万人目となった方は金沢医療技術専門学校の学生さんです。

大勢のクラスメイトと一緒に献血に来ていただきました。

ありがとうございます。

これからも献血ルーム ル・キューブは、皆さまのご協力をお待ちしております!



さちしお

SACHISHIO

【さちしお】
「血液事業をとおして、みなさまの幸せに貢献する」との願いを込め、幸せの「幸(さち)」と「血潮(ちしお)」を組み合わせ、名付けられました。



献血キャラクター けんけつちゃん 石川県バージョン 利家チッチとまつチッチ

ありがとうございました!! 永年献血

長きにわたり献血にご協力いただき、今般献血を卒業された皆さまをご紹介します

娘の誘いで体験して以来、今まで続けられ卒業できて嬉しいです。この体を与えてくれた親と優しく迎えて下さるスタッフの皆様へ感謝しています。
小さな思いやりの輪がこれからも広がりますように。
三浦 裕子 様

献血の待合室で患者さんのメッセージを読んでいると、日々大変な想いをされながら一生懸命に生きている姿。それでも献血への感謝の言葉が綴られて…。私こそ患者さんから多くの元気をいただきました。こんなに喜んでもらえて幸せです。献血するともらえる検査結果の知らせが健康管理になり助かっていました。途中何回か無理な時もありましたが、何とか卒業までに46回出来ました。(目標は50回だったけど残念です。)若い方、一度献血ルームへ行きませんか。
久保 隆 様

七夕献血キャンペーン 実施

7月1日(日)、アル・プラザ金沢と献血ルーム ル・キューブで「七夕献血キャンペーン」が行われました。両会場で合計61名の学生ボランティアが献血を呼びかけ、151人の方が献血していただきました。このキャンペーンは、学生ボランティアが輸血を受ける患者さんと献血者との架け

橋になって、広く献血を呼びかけるものです。県内12の医療機関のご協力のもと、患者さんからいただいたメッセージを献血会場でも多くの方に見ていただいたとともに、献血者からも、患者さんへの励ましのメッセージを短冊に書いていただきました。献血者からは、「学生さんが患者さんのために頑張っているのを見て、私も協力できればと思って献血しました」「一日も早く元気になってもらいたい」との声が寄せられました。

たくさんの皆さまのご協力ありがとうございました!

予告 東海北陸ブロック学生サマー献血キャンペーン

血液が不足しがちな夏季に献血を呼びかけるため、東海北陸ブロック7県の学生ボランティアと一緒に企画した献血キャンペーンです。当日は、学生ボランティアが会場周辺で献血を呼びかけるほか、オリジナルの記念品を贈呈します。皆さまのご協力をお願いします!!
【開催日】 8月19日(日)
【会場】 アピタ松任店(白山市幸明町280) 9:30~11:30 / 13:00~16:00
献血ルーム ル・キューブ(金沢市袋町1-1 かなざわはこまち3階) 10:00~12:30 / 13:50~16:00
●当日献血にご協力いただいた方に、「スヌーピーコットンポーチ」プレゼント!

いつも献血にご協力いただきありがとうございます。表紙でも紹介しましたが、献血ルーム ル・キューブの献血者数が5万人を達成いたしました!これほもとえに献血に協力して下さる皆さまのおかげです。これからもよろしくお願いいたします。
さて、来年は元号が変わり、今年の夏が「平成最後の夏」となります。そんな「平成最後の夏」に献血で思い出を作りませんか?思い出作りのお手伝いできるよう血液センター職員一同、献血ルームや献血バスでお待ちしております!
(編集委員:O)

わたしたちの 思い

～ 献血にかかわる様々な立場から～

夏号は、地域での献血推進だけでなく、ご自身も献血にご協力いただいている
かほく市 油野 和一郎 市長にお話を伺いました

献血を始めたきっかけ

— 油野市長さんは、これまでに36回も献血にご協力いただいています。ありがとうございます。

私より多く献血しておられる方はたくさんいらっしゃいますから、恐縮してしまいます。公務の合間や休日に、できる時にしているだけです。献血バスが来た際に、そういえば前回献血してから3か月以上経った*1からもう献血できるな、と思ってバスに乗る、本当にそれくらい気軽に献血しています。

※1 全血献血の場合、男性は12週間、女性は16週間経過後に献血可能



油野 和一郎 市長

— 献血を始められたきっかけは何だったのでしょうか。

もう何十年も前のことなので定かではないんですが、おそらく町会の壮年団活動の一環で、地元の公民館で献血したのが最初じゃなかったかなと思います。

現在は、市役所やイオンモールかほくで献血することが多いです。献血していると、老若男女様々な方が献血に来られていて、多くの方が献血に協力していることがよくわかります。

いつも献血を募集されているので、日々血液が必要なんだな、という認識でいます。輸血が必要な方のお役に少しでも立てるなら、という思いで協力させてもらっています。

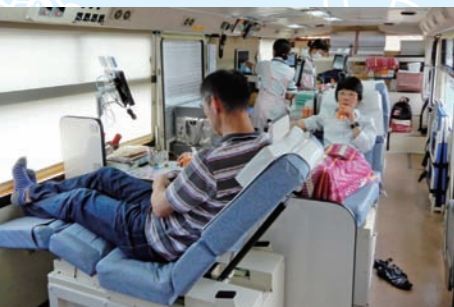
地域コミュニティが献血を支えている

— かほく市では、毎年多くの市民の皆さまが献血にご協力くださっていますが、どのような背景があるのでしょうか。

かほく市民に限らず、誰しもが本来誰かの役に立ちたいという思いを持っていると思います。ただ、なかなか具体的な行動に移すきっかけがなく、また自分一人では始めにくいものでしょう。

その点、かほく市は、ご近所さん同士が声を掛け合い助け合う、昔ながらの温かい地域コミュニティが今も残っています。

かほく市には55の町会・区があり、世帯数も平均年齢も実に様々ですが、こうした地域のつながりがあるおかげで、例えば市の様々な事業への協力をお願いする際には、町会長さん、区長さんのご協力のもと、それぞれの地域で広く声をかけあってくださるな



献血バスでのご協力

ど、温かなご協力をいただいています。

行政は、市長や職員だけでは運営できません。町会長さんや区長さん、民生委員さんをはじめとする市民の皆さんが協力して下さることで運営できるんです。

献血も同じで、実施日や会場が決まると地域で呼びかけていただいています。また、以前より数は少なくなりましたが、青年団、壮年団、婦人会などの活動も盛んで、各団内で呼びかけて献血をしているところもあります。こうした地域での声掛けが続いてきたことで、少しずつ協力の輪が広がってきたことが、多くの市民の献血協力に結びついているんだと思います。

また、献血実施を支えてくれる地元有志の方の支えも大きいんじゃないでしょうか。かほく市では、高松ライオンズクラブさんやかほく市中央ライオンズクラブさんが献血会場で呼びかけや記念品の贈呈をして下さっています。PFUさん等の企業のご協力もあります。

献血は、最初はなかなか躊躇して、しかも一人では行きにくい方も多いかもしれませんが、知った人から「患者さんのために献血してくれませんか」と声をかけてもらえたら、あの人がそう言うなら、誰かのためになるんなら一緒に献血するか、という気持ちになりますね。

こうした「顔の見えるコミュニティ」は、わが市が誇れるものの一つです。

— 市役所のご当局にも毎回献血の実施に様々なご支援をいただいています。

献血実施のお知らせを『広報かほく』に掲載したり、地域の回覧版で献血実施のお知らせを回覧したりするほか、市民向けのメールサービス『いいメールかほく』でも献血日程を配信したりしています。市役所での献血の際には、私も職員に呼びかけたり、館内放送で周知してもらったりしています。

市民の皆さんと力を合わせて、私たち行政もできる協力をしています。



河北海岸の夕日

行政は「きっかけづくり」

かほく市は、『海とみどりに抱かれた、にぎわいあふれるまち』の実現に向け、様々な事業を展開していますが、そのための仕事のひとつは「きっかけづくり」だと考えています。

市民の皆さんが気軽に参加でき、また企画や運営に積極的に参画できる事業を実施する、あるいは地域の学生さんや企業の皆さんとタイアップする、そういったきっかけを提供することによって、市民の皆さんがかほく市に愛着をもってくださる、また、地域で新たなつながりが生まれ、コミュニティの活性化につながることでできると考えています。

例えば、かほく市主要事業の一つとして、市民の健康づくりを推進しています。中でも「か歩(ほ)



かほく市の特産 デラウエア

く健康ウォーキング事業」では、石川県立看護大学とイオンモールかほくとタイアップして、活動量計を活用したウォーキングとイオンモールを活用したウォーキングを行っています。また、健康教室やウォーキングイベントを開催する「健康ポイントラリー」も行っています。昨年度は総勢4,773人もの方が参加してくださいました。



か歩(ほ)く健康ウォーキング事業

私も体を動かすのが好きで、普段からジョギングをしているんですが、このウォーキングラリーや、歩数計を活用したウォーキングにも参加しています。一日1万歩達成記録の上位30位以内に入っているんですよ。県内の市長さん・町長さんの中でも私と山野(金沢)市長は健脚自慢ができるんじゃないかと自負しています(笑)。

この事業をとおして、多くの市民が健康に意識を向け、積極的に体を動かしたり、健康的な食生活を心掛けたりして下さっています。

献血も、健康であればこそできるボランティアですね。かほく市のこうした取り組みが、献血にも役立てば嬉しいです。私も、今後も健康に気をつけて、献血を続けたいと思っています。

次世代を担う若者とのタイアップ

— 近年、10代～20代の若者の献血が減少しています。将来にわたって患者さんを支えるために、若者の献血への理解や協力が不可欠です。

かほく市には石川県立看護大学のキャンパスがありますが、看護大の皆さんは、血液センターさんから献血に関するレクチャー*2を受ける機会があると伺っています。次世代を担う若い世代に、献血の必要性についてまず知ってもらうことは大切なことですね。そうして少しずつ裾野を広げていくことが、これからの献血協力につながっていくと思います。



【愛彩(あいさい)弁当】と看護大学生の皆さん

※2 県内の高校、大学に血液センター職員や学生献血推進ボランティアが伺い、献血についての基礎知識を学んでいただく「献血セミナー」を実施しています

かほく市も、看護大の学生さんと積極的に協働しています。健康への意識が高い学生さんが集まっていますので、大学と包括的連携に関する協定を締結して、学生さんにかほく市の健康づくり促進事業の様々な企画や運営に積極的に参加していただいています。

例えば、フィールドワークとして、かほく市の各地域をキャンパスに見立て、高齢者福祉など地域と連携した様々な活動や研究を行っていただいています。また、「愛彩(あいさい)弁当」として、市特産の野菜を多く使用した健康に配慮したレシピのお弁当を学生さんに考案してもらったりもしました。このお弁当は3月末にイオンモールかほくでお披露目したところ大変好評で、発売直後に売り切れたんですよ。ぜひ一度食べてみてください。

学生さんの中には、かほく市以外から来られる方もたくさんいますので、こうした連携の機会をとおしてかほく市に愛着を

持っていただけたら嬉しいです。

かほく市は、大手出版社が毎年公表する『住みよさランキング』でトップクラスに評価されるなど、全国的に認知度が高まっています。地理的にのと里山海道で県内各地へのアクセス至便であり、金沢市内へも充分通勤圏内です。また、高校生までの医療費無料など、子育て世帯へのサポートを充実していることで、嬉しいことにかほく市に移住される子育て世帯が徐々に増えています。

今後を担う若い世代がこうして地域の一員として積極的に市政に参画して下さっていることで、コミュニティが活性化しています。皆がまちづくりの主人公です。

献血も、決して他人事ではないです。いつ自分や自分の大切な人が輸血を受けるかもしれません。たくさんの方々がお互いに支えあって命を守っている、ということをもっと多くの皆さん、特に将来を担う若い皆さんに知っていただきたいですね。

これから献血を考えている方へ

— 最後に、これから献血を考えている皆さまへメッセージをお願いします。

献血は決して特別なことではありません。一度献血をしてみればどんなものかわかると思いますので、ぜひ一度献血バスや献血ルームに足をお運びいただきたいと思います。

かほく市では、市役所やほのぼの健康館、高松産業文化センター、石川県立看護大学などに献血バスが来て、献血を実施しています。また、ご自身の職場に献血バスが来ることもあるかと思えます。



かほく市マスコットキャラクター「にゃんたろう」と「けんけつちゃん」と一緒に

献血は気軽に協力できるうえ、自分の血液が輸血を必要とする患者さんの役に立ちます。皆さんの思いやりの心で、ぜひご近所やお友達を誘って協力してみてください。

— 本日は貴重なお話をありがとうございました。

(聞き手 さちしお編集委員会)

コラム 献血のゆくえ 「調べる」

皆さまから献血していただいた大切な血液は、「集める」「調べる」「つくる」「届ける」の4つのステップを経て輸血を待つ患者さんのもとへ届けられます。今回は「調べる」についてお話しします。

献血していただいた血液はそのまま患者さんに輸血されているわけではありません。輸血を受ける患者さんの安全を守るために、血液型検査や感染症予防のための抗原・抗体検査、核酸増幅検査のほか、献血後の健康のパロメーター等にしていただけるよう、献血者にお知らせする生化学検査、血球計数検査などを行います。これらの検査のために、献血前に5本の試験管に採血しています。



生化学・血球計数検査の結果は、希望された方に献血後2週間程度で郵送にてお知らせしています。健康チェックなどにぜひお役立てください。

▶次回は「つくる(製剤)」です

